



令和3年度前橋市粕川歴史民俗資料館秋期企画展

しらふじこふんぐんはっくつねん 白藤古墳群発掘40年

ここまでわかった白藤古墳群



展示解説書

開催にあたって

- | | |
|---|---------|
| 1 白藤古墳群概観 |2 |
| 2 白藤古墳群の年代 |3 |
| 3 新事実と訂正事項 |6 |
| (1) A-1号墳の再発見 |6 |
| ①鉄製紡茎付石製鋸鉋車
(てつせいぼうけいつきせきせいばうすいしゃ) | |
| ②ガラス玉付鋼製中空勾玉
(がらすだまつきどうせいかちゅうくうまがたま) | |
| (2)V-2号墳主体部出土遺物群 |9 |
| ①提磁(さげど)
②故羅(こうろ)
③石製模造品(せきせいもぞうひん) | |
| (3)豊富な初期須恵器 |11 |
| (4)垂下突蒂付高杯 |12 |
| (すいかどうといつきたかつき) | |
| 4 白藤古墳群が意味するもの |18 |

ぐんまちゃん埴輪の出土地

前橋市粕川歴史民俗資料館

会期 令和3年10月23日（土）から
令和4年2月27日（日）まで

開館時間 10:00～16:00（入館は15:30まで）
休館日 月・火曜日（休日の場合は翌日休館）
年末年始（12/28～1/4）

入館料 無料



「白藤古墳群発掘40年 ここまでわかった白藤古墳群一」

令和3年10月で、『白藤古墳群』の最初の発掘調査から、40年を迎えます。この機会に、これまで蓄積されてきた県内の同時期の考古学的資料の調査研究成果を基に、『白藤古墳群』をもう一度、再確認、再発見していくことを目的として、今回の企画展を開催します。



馬と円筒埴輪、土師器 (V-4号古墳)



祭祀の土器 (A-1号古墳)



鉄斧・胡錫 (V-2号古墳)



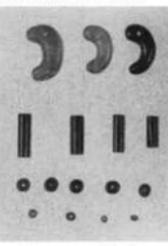
人物・馬形埴輪と円筒埴輪、土師器 (P-6号古墳)



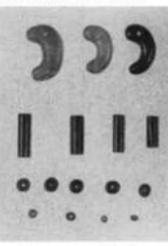
生活の土器 (BH-4号住居跡)



津玉 (A-1号古墳)



援げ盤 (V-2号古墳)



勾玉ほか (A-1号古墳)

■関連講座

仮題

講座 ①「白藤古墳群の意味するもの」

日時：令和3年11月14日（日）13：30～15：00

講師：右島和夫氏（群馬県立歴史博物館特別研究員）

講座 ②「白藤古墳群の垂下突帯付高杯とその系譜」

日時：令和3年12月5日（日）13：30～15：00

講師：前原 豊（前橋市教育委員会）

講座 ③「白藤古墳群の埴輪群を考える」

日時：令和3年12月19日（日）13：30～15：00

講師：南雲芳昭氏（高崎市郷土考古資料館館長）

講座 ④「白藤古墳群の副葬品を考える」

日時：令和4年1月23日（日）13：30～15：00

講師：杉山秀宏氏（公財 群馬県埋蔵文化財調査事業団）

仮題

講座 ⑤「白藤古墳群出土須恵器から見えてくるもの」

日時：令和4年2月11日（金・祝）13：30～15：00

講師：藤野一之氏（駒澤大学文学部歴史学科）

見どころ
解説

事前申し込み不要

[日時] 10月31日（日）、11月21日（日）、12月12日（日）

いずれも午前・午後開催。
午前は11時から30分程度、午後は2時から30分程度

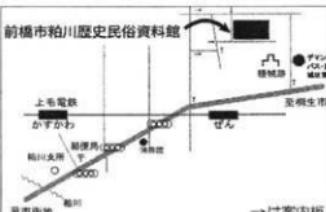
[講師] 当館職員

[会場] 展示室

申込方法
 11月1日（月）から電話で、前橋市文化財保護課（027-280-8511）へお申し込みください。定員になり次第締め切ります。

※連続講座のため、基本的に全ての日程の受講をお願いします。

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。



交通案内

上毛電鉄線駅より徒歩10分

赤城タクシー「デマンドバス・膳城東」下車。3分

北関東波志江スマートICから国道50号経由で約20分

前橋市粕川歴史民俗資料館

Kasukawa Museum of History and Folklore, Maebashi

〒371-0204 群馬県前橋市粕川町膳48-1

電話 027-230-6388

<http://maebashi-bunkazai.jp/>



令和3年度前橋市柏川歴史民俗資料館秋季企画展「白藤古墳群発掘40年」展示資料一覧

No.	遺跡名	出土遺構	種別	器種	備考
1	白藤古墳群	GH-9号住居	土師器	4点 高、高坏、壠、甕	前橋市教育委員会
2	白藤古墳群	VH-1号住居	土師器	10点 高坏、壠、鉢、甕、壠	前橋市教育委員会
3	白藤古墳群	LH-2号住居	土師器	9点 壠、壠、壠、甕	前橋市教育委員会
4	白藤古墳群	GH-6号住居	土師器	8点 壠、壠、小型甕、甕	前橋市教育委員会
5	白藤古墳群	BH-4号住居	土師器	19点 壠、壠、壠、小型広口甕、甕、片口	前橋市教育委員会
6	白藤古墳群新宿遺跡3次	I号住居	土師器	7点 壠、小型甕、壠、甕	前橋市教育委員会
7	白藤古墳群新宿遺跡3次	I号住居	須恵器	4点 壠身、広口壺、無蓋高坏、甕	前橋市教育委員会
8	白藤古墳群	A-1号墳	土師器・埴輪	30点 壠、壠、高坏、小型無蓋壺、壺、円筒埴輪	前橋市教育委員会
9	白藤古墳群	A-1号墳1号石室	玉類	銅製中空勾玉ガラス付き	前橋市教育委員会
10	白藤古墳群	A-1号墳1号石室	玉類	ガラス玉、ビーズ玉、ガラス小玉、管玉	前橋市教育委員会
11	白藤古墳群	A-1号墳1号石室	玉類	ヒスイ勾玉、メノウ勾玉	前橋市教育委員会
12	白藤古墳群	A-1号墳2号石室	玉類	ガラス玉、ビーズ玉、管玉	前橋市教育委員会
13	白藤古墳群	A-1号墳周堀	玉類	うるし瓦	前橋市教育委員会
14	白藤古墳群	A-1号墳周堀	玉類	鉄製紡糸付き石製紡輪鉗車	前橋市教育委員会
15	白藤古墳群	V-2号墳主体部	石製品・鉄器	11点 壠底、石製模造品、刀子、胡鎌、鉄鍔	前橋市教育委員会
16	白藤古墳群	V-2号墳周堀	土師器	壠、壠	前橋市教育委員会
17	白藤古墳群	V-2号墳	須恵器	無蓋高坏	前橋市教育委員会
18	白藤古墳群	V-7号墳	須恵器	壠	前橋市教育委員会
19	白藤古墳群	V-7号墳	須恵器	高坏脚部	前橋市教育委員会
20	白藤古墳群	D-3号墳	須恵器	壠	前橋市教育委員会
21	白藤古墳群	A-2号墳	須恵器	壠身	前橋市教育委員会
22	白藤古墳群	A-2号墳	須恵器	壠蓋	前橋市教育委員会
23	白藤古墳群	F-1号墳	須恵器	甕	前橋市教育委員会
24	白藤古墳群	A-1号墳	須恵器	高坏	前橋市教育委員会
25	白藤古墳群	A-1号墳	須恵器	壺	前橋市教育委員会
26	白藤古墳群	F-2号墳	須恵器	甕	前橋市教育委員会
27	大門遺跡	6号住居	須恵器	樽形甕	伊勢崎市教育委員会
28	六供遺跡群 No.7	7号住居	須恵器	樽形甕	前橋市教育委員会
29	荒砥北三木堂I遺跡	2区30号住居	須恵器	樽形甕	群馬県
30	泉沢谷津遺跡	5号住居	須恵器	樽形甕	群馬県
31	荒砥天之宮遺跡	C区12号住居	須恵器	樽形甕	群馬県
32	西浦北II遺跡	W-16溝	須恵器	樽形甕	かみつけの里博物館
33	温井遺跡	第12号住居	須恵器	樽形甕	群馬県
34	白藤古墳群	Y-6号墳	須恵器	樽形甕	前橋市教育委員会
35	鷲鳥川端遺跡	1号住居	須恵器	樽形甕	群馬県
36	高崎情報閉地II遺跡	16区44号住居	須恵器	樽形甕	高崎市教育委員会
37	高崎情報閉地II遺跡	11区161号住居	須恵器	樽形甕	高崎市教育委員会
38	前神遺跡	6区遺構外	須恵器	樽形甕	群馬県
39	成塚石橋II遺跡	109号住居	土師器	高坏	群馬県
40	成塚石橋II遺跡	第3河道	土師器	高坏	群馬県
41	成塚石橋II遺跡	第2河道	土師器	高坏	群馬県
42	中町遺跡	2号住居	土師器	高坏	前橋市教育委員会
43	白藤古墳群	AH-1号住居	土師器	高坏	前橋市教育委員会
44	白藤古墳群	P-1号墳	土師器	高坏	前橋市教育委員会
45	白藤古墳群	LH-2号住居	土師器	高坏	前橋市教育委員会
46	白藤古墳群	F-1号墳	土師器	高坏	前橋市教育委員会

47 白藤古墳群	AH-1号住居	土師器	高坏	前橋市教育委員会
48 六供遺跡群 No.5	H-7住居	土師器	高坏	前橋市教育委員会
49 櫻島川端遺跡	29号住居	土師器	高坏	群馬県
50 荒砥宮田Ⅰ遺跡	I区28号住居	土師器	高坏	群馬県
51 下芝天神・下芝上田屋遺跡	器物集積遺構	土師器	高坏	群馬県
52 本郷下海戸遺跡	H-1住居	土師器	高坏	藤岡市教育委員会
53 本郷花ノ木遺跡	147号住居	土師器	高坏	藤岡市教育委員会
54 金井下新田遺跡	5区4号遺構	ロクロ成形土師器	高坏	群馬県
55 西浦北Ⅱ遺跡	W-16溝	土師器	高坏	かみつけの里博物館
56 西浦北Ⅱ遺跡	W-16溝	土師器	高坏	かみつけの里博物館
57 西浦北Ⅱ遺跡	W-16溝	土師器	高坏	かみつけの里博物館
58 西島相ノ沢遺跡	5号住居	土師器	高坏	高崎市教育委員会
59 八幡中原5遺跡	1号住居	土師器	高坏	高崎市教育委員会
60 八幡中原4遺跡	3号住居	土師器	高坏	高崎市教育委員会
61 八幡中原4遺跡	3号住居	土師器	高坏	高崎市教育委員会
62 八幡中原4遺跡	7号住居	土師器	高坏	高崎市教育委員会
63 剣崎長瀬西遺跡	80号住居	土師器	高坏	高崎市観音塚考古資料館
64 剑崎長瀬西遺跡	114号住居	土師器	高坏	高崎市観音塚考古資料館
65 剑崎長瀬西遺跡	126号住居	土師器	高坏	高崎市観音塚考古資料館
66 大屋敷遺跡 1次	12号住居	土師器	三ツ寺型高坏	前橋市教育委員会 1月中旬より展示
67 元總社明神遺跡 V	17溝	土師器	三ツ寺型高坏	前橋市教育委員会 1月中旬より展示
68 遠見山古墳	填丘	土師器	三ツ寺型高坏	前橋市教育委員会 1月中旬より展示
69 白藤古墳群	HH-6号住居	玉類	滑石製模品(臼玉と勾玉)	前橋市教育委員会
70 白藤古墳群	V-8号墳石室	玉類	うるし玉	前橋市教育委員会
71 白藤古墳群	V-9号石櫛	玉類	ガラス(?)小玉、コハク玉	前橋市教育委員会
72 白藤古墳群	V-7号埴	土師器 4点	坏、塊	前橋市教育委員会
73 白藤古墳群	P-7号埴	土師器	坏	前橋市教育委員会
74 白藤古墳群	Y-5号埴	埴輪	円筒埴輪	前橋市教育委員会
75 白藤古墳群	Y-2号埴	埴輪	円筒埴輪	前橋市教育委員会
76 白藤古墳群	Y-5号埴	土師器、埴輪	高坏、円筒埴輪	前橋市教育委員会
77 白藤古墳群	Y-2号埴	埴輪	円筒埴輪	前橋市教育委員会
78 白藤古墳群	Y-4号埴	埴輪	円筒埴輪	前橋市教育委員会
79 白藤古墳群	Y-5号埴	土師器	坏、塊、壇	前橋市教育委員会
80 白藤古墳群	V-2号埴	埴輪 11点	円筒埴輪	前橋市教育委員会
81 白藤古墳群	V-4号埴	埴輪、土師器 17点	馬形埴輪、円筒埴輪、坏、壇	前橋市教育委員会
82 白藤古墳群	Q-1号埴	埴輪	朝顔形円筒埴輪	前橋市教育委員会
83 白藤古墳群	P-1号埴	埴輪、土師器 8点	円筒埴輪、高坏、壇	前橋市教育委員会
84 白藤古墳群	P-6号埴	埴輪、土師器 6点	馬形埴輪、円筒埴輪、人物埴輪、壺	前橋市教育委員会
85 白藤古墳群	F-1号埴	埴輪、土師器 3点	円筒埴輪、坏、壺	前橋市教育委員会
86 白藤古墳群	F-2号埴	埴輪、土師器 5点	馬形埴輪、円筒埴輪、坏、壺	前橋市教育委員会
87 白藤古墳群	D-3号埴	埴輪、土師器 3点	馬形埴輪、円筒埴輪、壺	前橋市教育委員会

令和3年度 前橋市粕川歴史民俗資料館秋季企画展

「白藤古墳群発掘40年－ここまでわかった白藤古墳群－」

開催にあたって

本館が所在する前橋市粕川町膳の新宿・白藤地区は、『白藤古墳群』の所在地です。『白藤古墳群』は、『ぐんまちゃん埴輪』として広く群馬県民に知られている『白藤古墳群』V-4号墳出土の馬形埴輪で一躍有名になりました。

この『白藤古墳群』は、調査古墳数52基からなる古墳群で、同時期の集落跡が近接して存在しています。その形成時期は5世紀前半から6世紀前半を主体とするもので、出土遺物も多彩な資料があります。

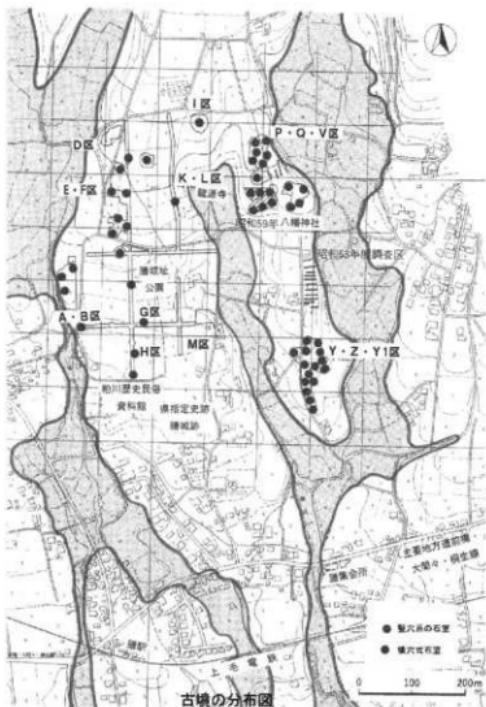
令和3年10月で、この『白藤古墳群』の最初の調査から、40年を迎えます。この機会に、これまで蓄積されてきた県内の同時期の資料の調査研究成果を基に40年前に調査された『白藤古墳群』をもう一度、前橋市民のみなさんに再認識していただくことを目的として、今回の企画展を開催することとしました。

今回の企画展を開催するにあたり、以下の諸機関から資料の借用等ご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団・高崎市教育委員会・高崎市観音塚考古資料館・高崎市かみつけの里博物館・伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館・藤岡市教育委員会・群馬県産業技術センター、独立行政法人群馬大学工学部器機分析センター

1 白藤古墳群概観

白藤古墳群は、前橋市の東端、桐生市と接する粕川町膳の白藤・新宿・八幡地区に所在します。遺跡地は赤城山南麓の標高200m程比較的広く平らな丘陵上にひろがっています。遺跡地の東側は、赤城山南麓特有の狭長な小河川を作り開析谷が形成され、水田化されています。遺跡地との比高差は8m程あります。遺跡地の西側は粕川の氾濫による扇状地と開析谷に接し、兎川によって浸食を受けています。

また、遺跡地のある丘陵中央には湧水点を作り谷頭があり、下流は潤滑な水田となっています。この谷地に面して中世後期の膳城が造られ、谷頭には曹洞宗龍源寺が造営されています。



古墳群は、台地の西側、扇状地面に面する一群（A・B・C・D・E・F）と台地東側、谷頭の東側丘陵上的一群（P・Q・V・Y・Z・Y₁）とに分けられます。傾向として前者が新しく、後者が造営時期は古いといえます。集落跡は西側に多く検出されており、東側丘陵上は古墳時代中期前半の竪穴住居2件が検出されたのみでした。

2 白藤古墳群の年代

白藤古墳群と古墳群に近接する集落遺跡から出土した土器を基にして、白藤古墳群と集落の年代を考えます。

白藤古墳群及び近接する集落の堅穴住居出土の土器群を比較します。これらの土器群はその形の変化が時間的な変遷を示し、年代を示す物差しとなります。

また、遺構を埋めている土（土層）に認められる火山灰層もその遺構が造られた年代を知る根拠の一つとなります。この遺跡では、榛名二ツ岳火山灰（H r - F A）の堆積の有無が遺構の年代を考える上での有効な手掛かりとなります。榛名二ツ岳火山灰（H r - F A）は、「発掘された古墳人」で、有名となった渋川市金井東裏遺跡の集落を埋めた火砕流の発生源となった榛名山二ツ岳噴火の最初の爆発に係る火山灰です。

白藤古墳群では古墳時代前期後半（西暦 350 年頃）から古墳時代後期中葉（西暦 550 年頃）の堅穴住居が検出されています。大凡この 200 年間を土器の変遷を基に 8 段階に分けることができます。

第 1 段階は GH-9 号住居出土の土器群に代表される一群で、古墳時代前期の在地的な要素を多く持った土器群です。本遺跡の中で最も古い段階に位置付けられ、4 世紀後半のものと考えられます。

第 2 段階は VH-1 号住居出土の土器群に代表され、高壺や小型壺の出土比率が高く、定型化した壺や壺はありません。古墳時代中期前半、5 世紀の前半に位置付けられる段階です。

第 3 段階は LH-2 号住居に代表される段階で、やや定型化した小さな平底が特徴的な深い碗状の器種が目立ちます。

第4段階はGH-6号住居に代表される段階で、小型壺が無くなり、高壺の出土も少なくなり、定型化した小さな平底の塊が顕著です。古墳時代中期中葉、5世紀中頃の段階の土器群です。

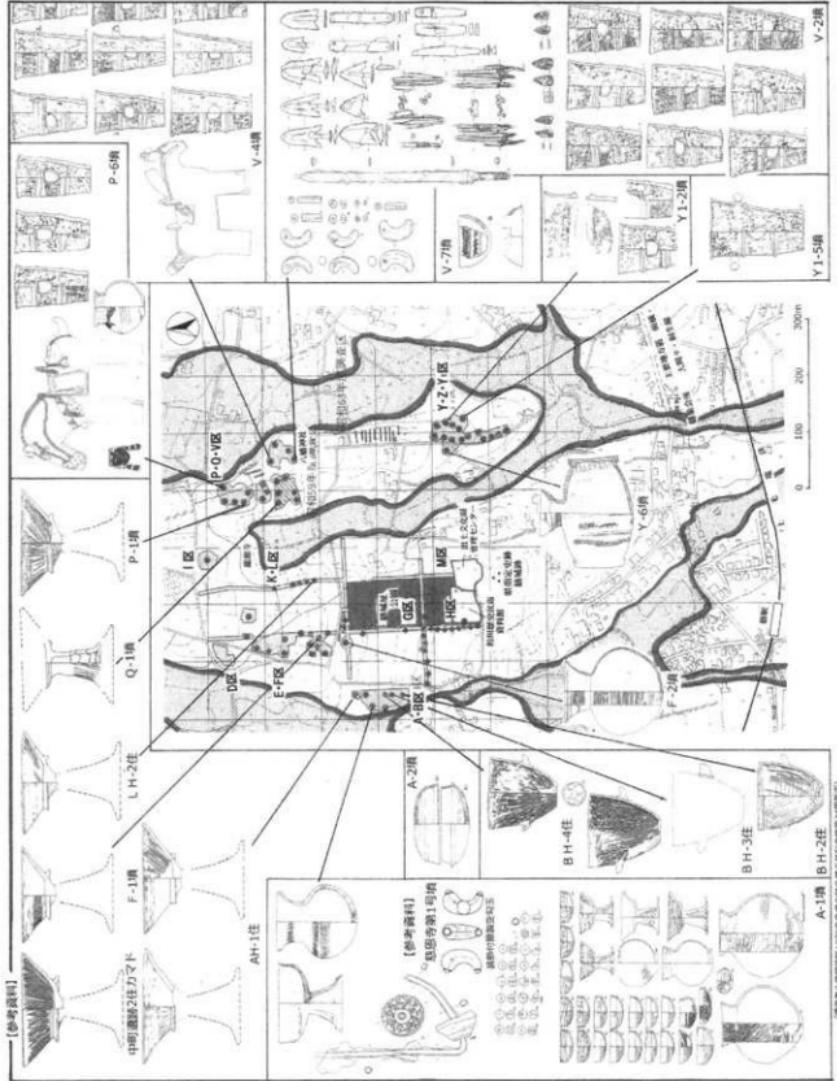
第5段階はBH-4号住居の一群に代表されます。高壺は極めて稀で、壺も無くなります。底部が丸底となり、口縁部が立ち上がる定型化した壺が顕著です。この段階には赤城山南麓地域では竪穴住居にカマドが造られ始めます。5世紀後半に位置付けられています。古墳ではV-2号・Y-5号古墳出土資料が該当し、5世紀後半に位置付けられます。

6段階はV-4号・V-7号古墳出土資料に代表される資料で、やや大振りで、器高が高く、胴部と口縁部の境界に明瞭な稜を持つ壺と内面に丁寧なミガキが施された丸底の壺が顕著な段階です。5世紀末に位置付けます。この段階の古墳の周堀を埋めている土層にはHr-Faの純層が確認できます。第5段階と第6段階の間でHr-Faの降下があったことが考えられます。

第7段階はA-1号古墳出土資料が想定されます。外面に明瞭な稜を持った明らかに須恵器壺の蓋を模倣した定型化した壺が顕著な段階です。6世紀の前半に位置付けます。

第8段階は本資料館建設に先立つ調査で検出された1号住居出土の土器群で代表される段階で、須恵器の壺身を模倣した定型化した土師器の壺が一般化する段階です。6世紀中葉に位置付けることができます。

以上のように白藤古墳群で出土した土器群は、概ね8段階に分けられ、4世紀後半から6世紀中葉に位置付けられます。古墳から出土した土器群は、第5段階から第7段階までに該当します。



3 新たに判った事実、訂正すべき事

白藤古墳群については平成元（1989）年3月に調査報告書－以下「報告書」という－が刊行されています。しかしながら、当時は時間や費用の関係で、詳細な分析や理化学的な分析が行われてきていませんでした。また、平成24（2012）年には渋川市金井東裏遺跡で世紀の人発見がありました。榛名山の火山灰に埋もれた「甲を着た古墳人」の発見でした。この調査と発見そして学際的な報告書は、群馬県の考古学界にとっては画期的なこととなりました。古墳時代研究が大きく進展したように思います。

今回、白藤古墳群発掘40年にあたって、これらの新しい調査成果を踏まえて、いくつかの理化学的な分析を新たに実施することができました。40年前の反省も込めてここに再報告したいと思います。

（1）A-1号墳の再発見

A-1号墳は2号墳と共に調査区中最も西に検出された一群の古墳でA-2号墳と隣接しています。2号墳の周堀は1号墳と接する箇所で止まっており明らかにA-1号古墳を意識して造られており、A-1号墳が古くA-2号墳が新しいということが読み取れます。A-1号古墳は葺石を持ち、円筒埴輪、形象埴輪が確認されています。竪穴系石室が墳丘中央に2基設けられ、石室内からは玉類が多く出土しています。また、周堀内からは一ヵ所に多量な土器をまとめて納めるような祭祀的な出土状態で土師器群が出土するとともに、特異な遺物が出土しています。その中の一つに紡錘車があります。

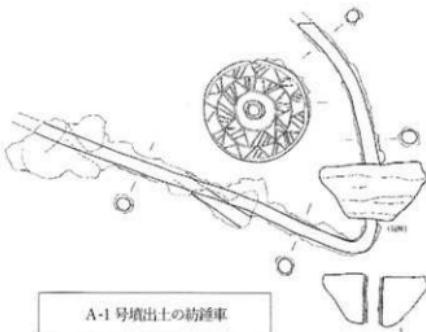
① 「鉄製紡錘車」は【鉄製紡茎付き石製紡錘車】だった

A-1号墳の周堀底から出土したもので「報告書」では「鉄製紡錘車」として報告されているもの

です。「紡錘車」とは糸を紡ぐ際に、糸に燃りをかけながら糸を巻き取る為のはずみ車となるもので、木や石で作られたものが一般的で、鉄で造られたものも出土することがありました。調査当時は、群馬県内では奈良・平安時代の遺跡で、鉄で作られたものが出土することが知られていました。「報告書」では紡茎部分は全体に鋳が浮き出て、紡輪部分にも鋳が全体に付着していることから全体が鉄で造られた「鉄製紡錘車」として報告しています。ただし、紡輪部分には線刻紋様がつけられていることは確認でき、「報告書」では図示しています。

います。

A-1号墳はその出土遺物や検出された石室の状況から6世紀前半台の古墳と考えられ、調査当時はこの「鉄製紡錘車」は国内最古の出土例であったはずでした。



しかし、今回改めて、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の協力を得て、この「紡錘車」のX線撮影を行いました。その結果、X線写真にみると「紡茎」の部分は鉄製でしたが、「紡輪」は石製の紡輪のまわりを薄い鉄の膜が覆っていることが確認できました。これは土中で、鉄分が溶け出し石製の紡輪全体を覆ったものと判断されました。結果、「調査報告書」で、「鉄製紡錘車」としたものではなく、「鉄製紡茎の付いた石製紡輪」の紡錘車であることが明らかになりました。

長野県森将軍塚古墳に近接する2号土墳から同様な紡錘車が2点出土しています。また、奈良県寺口忍海古墳群のE-2号古墳からも同様な紡錘車の出土が報告されています。群馬県内では、高崎市石

原稻荷山古墳－昭和55(1980)年調査－の石室から出土した紡錘車が鉄製として報告されています。

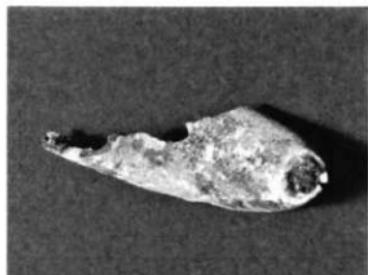
紡輪の形状は白藤A-1号古墳出土例に近似しています。日本の古代の紡織を研究する東村純子(福井大学)さんによれば日本国内の石製紡輪に鉄製紡茎をつけた出土例は6例が紹介され、いずれも6世紀中葉から7世紀前半に位置付けられています。本資料は、群馬県内の出土例としては2例目ということになり、残念ながら、国内最古の鉄製紡錘車とはなりませんでしたが、県内出土例としては最古となります。

② 「銀製空玉」は【ガラス玉付き銅製中空勾玉】だった

「銀製空玉」はA-1号墳1号石室から出土したもので、出土状態を記録した写真にはその出土状態が確認できます。遺存状態が悪かったことから、図示することができず「調査報告書」では文章のみで出土遺物の項に「銀製空玉1」と記録しています。

今回、この「銀製空玉」が本当に銀製なのか、また、その形状は空玉なのかを明らかにするために蛍光X線分析、CT画像撮影を群馬大学機器分析センター、群馬県産業技術センターでそれぞれ実施しました。

その結果、「銀製空玉」は【ガラス玉付き銅製中空勾玉】であることがあきらかになりました。まず、蛍光X線分析の結果からは、頭部にはケイ素を多く含む物質が検出されました。ケイ素はガラスを構成する主原料です。本体部分では、銀はほとんど検出されず、銅が高い数値で検出されました。



ガラス玉付き銅製中空勾玉

銀被膜等の可能性も無いことがわかりました。

CT画像からは、頭部にガラス質の物質が載り、中央に直線的な線が認められることから、中空にするため左右2枚の銅を貼り合わせていることが確認できました。頭部のガラスについては、どのように取り付けているのか詳細は不明ですが、溶けたガラスを小さな頭部に流しいれているように見えます。古代の技術力の高さには驚かされます。

このガラス玉付銅製中空勾玉は国内での出土例はこれまでのところ無いようです。銀製のガラス付き勾玉が奈良県外鏡山北麓古墳群の慈恩寺第1号墳から出土していることが知られています。この慈恩寺第1号墳出土品は銀製の中空勾玉の頭部に金物の台座を装着しガラス球を取り付けています。

(2) V-2号墳主体部出土の遺物群が意味するもの

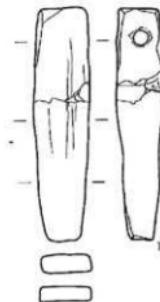
V-2号墳は東地区の八幡宮の北側に検出され、V-1、3、4号墳に近接しています。V-1号墳と2号墳は近接していますが、周囲はそれぞれ干渉せず、V-3号墳は、V-2、4号墳の周囲を避けて周囲を造営しています。V-3、4号墳の周囲を埋土中にはHr-Faの純層が確認されています。遺体を葬る主体部はV-2号墳を除き検出されませんでした。

V-2号墳の主体部は、墳丘中央に、長さ3.98m、幅1.92mの長方形の土壙を2段に深さ1m程掘り下げて底面に白色粘で被覆した棺を据えたものと想定することができました。他の古墳で検出された主体部は石を用いた石棺状のものであったのに対して、V-2号墳の主体部の違いが際立っています。この主体部より鉄製品を含む特徴的な遺物群が出土しています。

① 提砥

主体部から出土した遺物の中で、注目される遺物として提砥があります。これは腰にぶら下げる

ための紐穴がある砥石です。主体部の中央で見つかっています。この提砥は、渋川市金井東裏遺跡で注目された遺物です。「甲を着た古墳人」が身につけていたことで、再注目される事になりました。金井東裏遺跡の報告書で、朝鮮半島南部との関係が国立歴史民俗博物館の高田寛太さんや群馬県立歴史博物館特別館長右島和夫さんから指摘されている遺物です。

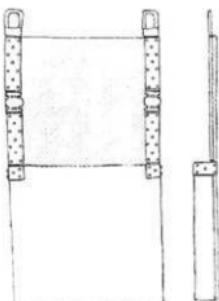


V-2号墳出土提砥

V-2号墳出土の提砥は最大長9.5㌢、幅2.2㌢、厚さ1.9㌢で、使用による磨り減りが認められます。石材の産地については不明です。

② 胡籠

次に胡籠は右腰に吊り下げて、矢を収納する道具で、矢を下向きに収納するものとされています。V-2号墳出土の胡籠金具は一対式短冊形吊手飾金具（田中新史1988）と呼ばれる胡籠の吊手金具で、鉄製で装飾の無い実用性の高い造りとなっています。出土位置は主体部の中央、鉄剣の切先側の対面から短冊形吊手金具と鉄鍔の茎がまとまって出土しています。



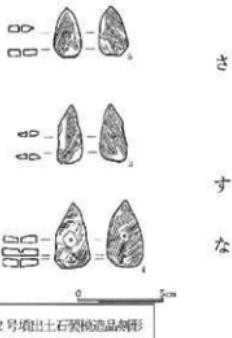
胡籠の復元図 (坂 1992 より)

群馬県内の出土例は渋川市田尻2号墳や高崎市井出二子山古墳から金銅装の三葉立飾金具付の胡籠が確認されています。この胡籠も朝鮮半島との関わりが強い遺物です。

③ 石製模造品

石製模造品剣形品3点が主体部中央で刀子と接するように検出されています。

この石製模造品は古墳時代中期（5世紀）の東日本で、広く出土する遺物で、祭祀遺構と呼ばれる遺構から出土するもので、日本の遺物と言えます。



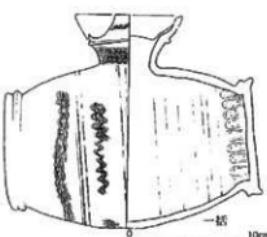
これらの出土遺物からV-2号墳の被葬者は、朝鮮半島の影響を受けた武具をまといながら極めて倭的な武人の姿が想像できるかもしれません。

（3）豊富な初期須恵器

白藤古墳群からは、5世紀から6世紀前半の須恵器が比較的多く出土しています。赤城山南麓の5世紀から6世紀にかけての集落遺跡を調査すると必ず1軒くらい古い須恵器をボツンと1個体出土する竪穴住居があります。白藤古墳群では、竪穴住居からの須恵器の出土は6世紀中葉のTK-10段階の遺物が一軒の竪穴住居から出土していますが、それ以前の資料は全て古墳からの出土品です。

5世紀後半代の赤城山南麓地域における須恵器の有り方の一端を表しているように思われます。白藤古墳群で、いわゆる初期須恵器を出土した古墳はV-2、V-7、Y-6、F-1、F-2、A-1、A-2の各古墳です。

樽形ハソウは特徴的な形をした初期須恵器で、白藤古墳群ではY-6号墳の周堀中から出土しました。このY-6号墳からは他の遺物の



Y-6号墳出土樽ハソウ

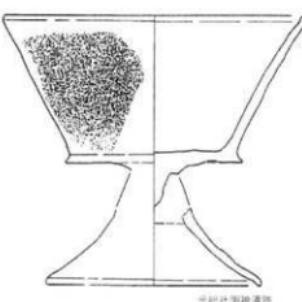
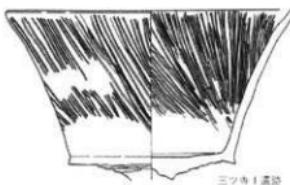
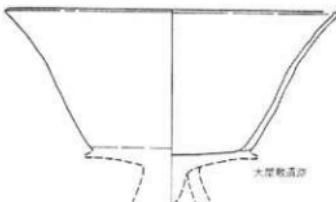
出土は無く、この樽形ハソウ 1 点が出土しただけでした。群馬県内では 12 遺跡から 13 点の樽ハソウが出土しています。高崎市域で 3 点、太田・藤岡・伊勢崎市域で各 1 点づつ確認され、他は総て前橋市域からの出土例です。白藤出土例を除き、竪穴住居からの出土が多く、高崎市情報母地遺跡からは 2 軒の竪穴住居から樽ハソウがそれぞれ出土しています。(小島)

(4) 垂下突帶付高杯

白藤古墳群の高杯に垂下突帶付高杯(註 1)と呼ばれる高杯の杯部底に粘土紐をひとまわり巡らす 5 世紀に特有な高杯形土器の存在が資料調査によつて判明しました。この垂下突帶付高杯の発見は、

1992(平成 4)年に前橋市總社町大屋敷遺跡の発掘調査が契機となっています。この時の調査で出土した 1 点の大型高杯形土器を調査担当者から類似例はないかと聞かれ、類似例を探してみたところ、

1983(昭和 58)年調査の當時群馬町の三ツ寺 I 遺跡の南濠から同様な大型高杯の出土事例があります。さらに 1986(昭和 61)年調査の前橋市元總社明神遺跡 V の濠跡からも同様な大型高杯が出土していることが分かりました。そこで、調査担当者に、「この特色ある大型高杯を『三ツ寺型高杯』と



名付けて、研究者の注意を喚起したら如何」と提言をしました。

三ツ寺I遺跡は全国的にも著名な古墳時代中期の居館であり、元總社明神遺跡Vの濠も古墳時代中期居館の遺構と思われます。大屋敷遺跡では居館跡は見つかっていませんが、總社古墳群や山王廃寺に近接する重要な遺跡であることや、古墳時代の出土品に注目すべきものが多数存在するため遺跡内に居館の存在が推定されました。

2018(平成30)年に前橋市遠見山古墳の発掘調査で、

さらに三ツ寺型高杯と再会する機会に恵まれました。居館や集落の祭祀行為に使用されていたと考えていたのが、古墳での使用例も追加となりました。このほかに三ツ寺型高杯は、旧箕郷町下芝天神遺跡の土器祭祀遺構から2点、高崎市八幡中原遺跡の住居跡から3点、藤岡市本郷花ノ木C遺跡の住居跡から1点出土しています。

さらに1928(昭和3)年に調査され、東京国立博物館に所蔵されている伊勢崎市恵下古墳の資料中にも2点

が存在することが判明しました。三ツ寺遺跡の発掘調査もすでに38年が経過していますが、三ツ寺型高杯と呼んだ大型高杯の類例は12点を数えるようになりました。



遠見山古墳



下芝天神遺跡



八幡中原遺跡

ところで、2020（令和2）年に高崎市觀音塚考古資料館で開催された『渡来人がつくった土器—高崎市内出土の韓式系土器一』（註2）で展示されていた劍崎長瀬西遺跡出土の普通サイズの高杯の杯部底にも粘土紐を巡らした垂下突帶付高杯が多数存在することに気付きました。

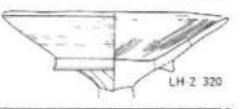
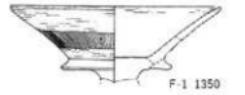
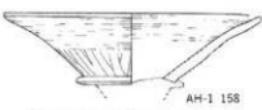
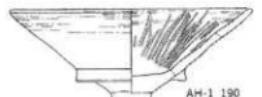
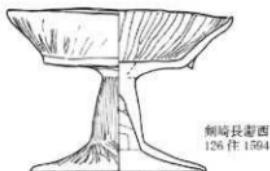
これを契機に県内の垂下突帶付高杯の類例を探したところ、榛名山東南麓と井野川流域の遺跡に集中することが判明し、さらに口縁の屈曲に特徴がある内斜口縁杯形土器と深い関係を有することが考えられました。

このように垂下突帶付高杯には大型サイズと普通サイズの2種類が存在します。そこで、「垂下突帶付高杯」のうち大型サイズの逆台形の深い杯部を有し、基本的に内外面とも斜行する暗紋で仕上げるものに限って「三ツ寺型高杯」と呼ぶことにしました。したがって「三ツ寺型高杯」は、「垂下突帶付高杯」に含まれます。

次に白藤古墳群の垂下突帶付高杯についてみて行きたいと思います。

白藤古墳群では住居から3点、古墳から2点出土しています。

AH-1号住190は、口径21㌢、垂下突帶部径10㌢。AH-1号住158は口径22㌢、垂下突帶部径



9 cm。F-1号墳1350は口径18^φ、垂下突帯部径10^φ。LH-2号住320は、口径19^φ垂下突帯部径10^φ。P-1号墳927-2は、口径20^φ、垂下突帯部径11^φ。

次に、中町遺跡は、白藤古墳群と同時に調査をおこなった遺跡で、白藤古墳群のAH-1号住居から谷を挟んで、ほぼ真西へ300 mの地点にあります。2軒の住居が調査され、2号住のカマドから口径22^φ、垂下突帯部径13^φの垂下突帯付高杯が出土しました。

これら6点の高杯は、しっかりとした厚みを持つ突帯部を大きく突出させることや、突帯部が小径となる傾向を示しています。また、利根川西部の垂下突帯付高杯は赤褐色が主体を占めますが、白藤例は赤褐色のほか黄橙色のものも存在します。

5世紀の全国や県内遺跡調査で垂下突帯付高杯の出土する割合は、かなり低く全く出土しない遺跡が大半を占めています。出土する場合でも一つの遺跡から1~2点が一般的です。ですから高杯に占める垂下突帯付高杯の割合は数%にも満たないものと思われます。極端に言うと100個に1個程度の割合で使用されたのが一般的であったかもしれません。

現在、垂下突帯付高杯の集成を行っていますが、全国で約500点ほど集まりました。県別の傾向をみると奈良県、三重県、愛知県、静岡県、石川県、滋賀県、岐阜県、長野県、群馬県、埼玉県というように近畿地方から東海、北陸、中部、北関東地方を中心とした分布が見られます。静岡県東部、神奈川県、東京都、千葉県に少ないため、海路ではなく陸路を使って伝えられた可能性が考えられます。

★1 遺跡から3個体以上の垂下突帯付高杯が出土している遺跡（註3）

【東北】(1)宮城県仙台市鴻ノ巣遺跡、(2)福島県郡山市清水内遺跡 【関東】(3)栃木県矢板市堀越遺跡、(4)群馬県前橋市白藤古墳群、(5)前橋市萱野遺跡、(6)太田市成塚石橋遺跡、(7)高崎市剣崎

長瀬西遺跡、(8)高崎市八幡中原遺跡、(9)高崎市西鳥相ノ沢遺跡、(10)高崎市下芝五反田遺跡、(11)高崎市西浦北遺跡、(12)渋川市吹屋糀屋遺跡、(13)埼玉県本庄市後畠遺跡、(14)本庄市南街道遺跡、(15)上里町本郷東・愛宕遺跡、(16)茨城県ひたちなか市三反田下高井遺跡、(17)ひたちなか市武田西綿遺跡、(18)千葉県船橋市小室遺跡、【中部】(19)長野県佐久市仲田II遺跡、(20)長野市櫻山遺跡、(21)長野市長野女子高校校庭遺跡、(22)長野市水内坐一元神社遺跡、(23)岐阜県関市大杉遺跡、(24)関市南貸上遺跡、(25)関市末洞遺跡、(26)関市砂行遺跡、【北陸】(27)新潟県南魚沼市飯綱山27号墳、(28)南魚沼市余川中道III遺跡、(29)石川県小松市漆町I遺跡、(30)小松市荒木田遺跡、(31)加賀市ガマノマガリ遺跡、(32)中能登町金丸宮地遺跡、【東海】(33)静岡県浜松市山ノ花遺跡、(34)袋井市坂尻遺跡、(35)愛知県名古屋市志賀公園遺跡、(36)名古屋市伊勢山中学校遺跡、(37)豊田市水人遺跡、(38)豊田市神明遺跡、(39)豊田市本川遺跡、(40)豊田市天神前遺跡、(41)岡崎市高木遺跡、(42)三重県津市六代A遺跡、(43)津市蔵田遺跡、(44)上野市高賀遺跡、(45)上野市城之越遺跡、(46)伊賀市高潮遺跡、(47)龜山市地藏僧遺跡、【近畿】(48)滋賀県東近江市斗西遺跡、(49)東近江市堂田遺跡、(50)甲賀市植遺跡、(51)大阪府八尾市木の本遺跡、(52)奈良県明日香村雷丘東方遺跡、(53)奈良市佐紀遺跡、(54)大和郡山市発志院遺跡、【山陰】(55)鳥取県松江市出雲国府遺跡、【山陽】(56)広島県浄法寺2号遺跡

以上 56 遺跡を数えます。山梨県、福井県、京都府、兵庫県について調べが進んでいませんので、今後、遺跡数が増えると考えられます。集成した遺跡については、いずれも 5 世紀を中心とした時期になるものと思われます。(前原)

註

(注1) 垂下突帶付高杯については、前原 豊 2020 「三ツ寺型高杯について-榛名山東南麓に集中する垂下突帶付高杯を探る」利根川42利根川同人会を参照してください。

(註2) 三浦茂三郎 2020 「渡来人がつくった土器・高崎市内出土の縦式系土器」 高崎市観音塚考古資料館発行図録による。

(註3) 発掘調査報告書名等は省略させていただきました。

4 白藤古墳群が意味するもの

白藤古墳群は、36軒以上の竪穴住居と52基の古墳が確認され調査されました。古墳は9基が方形周溝墓あるいは方形墳で、古墳時代前期の所産で、それ以降の古墳とは造営場所を異にしているのがわかります。また、7基が古墳時代終末期、7世紀の横穴式石室を主体部とした古墳でした。残りの36基が5世紀後半から6世紀前半の円墳で、直径20m前後の比較的画一的な古墳で構成されています。また、古墳間には墳丘や周堀を伴わない石室のみの古墳が19基、土壙墓が3基検出されています。

5世紀から6世紀前半の古墳群は東側尾根上に2地点、西側扇状地側に1地点に分かれて周堀を接するようにして群在しています。これらの古墳は規模や形状の上では比較的均一ですが、その内容を詳細にみると、葺石、埴輪、周堀内への土器祭祀、主体部内への副葬品などの有無で相違がみられます。また、小さな石室だけや土壙のみが造られるものもあり、それは被葬者の階層差として認識できるものかもしれません。そして、その小さな石室だけの古墳にも副葬品の有るもの無いものがあり、格差が認められます。

これらの古墳の中で特筆される古墳が、丘陵東側南区のY1-5号墳、同北区V-2号墳、丘陵西側F-1号墳、A-1号墳です。それぞれ葺石、円筒埴輪、周堀内の土器祭祀、副葬品など共通項を持ち、時期的に前後差を認めることができます。更に丘陵東側から西側へという時間的な変遷も見て取れそうです。5世紀中葉に円墳を使い、B種横ハケの入る円筒埴輪や葺石の使用を許されたY1-5号墳の

被葬者層は、V-2号墳の朝鮮半島の影響が強い武具である胡鎌や職能や身分の象徴としての提砥を携行した姿へと変貌し、6世紀前半、A-1号墳のガラス付き銅製中空勾玉をはじめとする装飾品を持った姿へと変わっていったものと考えられます。そして6世紀の前半で、白藤古墳群の形成は一旦終焉し、7世紀になって再び横穴式石室を主体部とした古墳が造られます。白藤古墳群が一旦終焉する6世紀前半以降、白藤古墳群の2キロ程北方に位置する柏川町月田富士ノ宮の地に新たに前方後円墳を持った月田古墳群の造営が始まります。この白藤古墳群の終焉と月田古墳群の造営開始は何らかの関連があるように見えます。

5世紀の耕地開発を積極的に行っていった地域小有力層が、6世紀中葉以降、発展を遂げた姿が中小前方後円墳を主体とする月田古墳群に代表される姿なのかもしれません。この群集墳の動向は大前後円墳に代表される有力首長層の動きと密接に関連している可能性があるはずです。白藤古墳群は赤城山南麓の古墳群を理解していくうえで様々な問題を提起してくれます。（小島）

令和3年度前橋市柏川歴史民俗資料館秋季企画展

白藤古墳群発掘40年展示解説書

ここまでわかった白藤古墳群

印刷・発行 令和3年10月23日

編集・発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11-4